

関係各位

2017年2月17日
津軽海峡フェリー株式会社

2017年3月11日津軽海峡ロード「青森～函館」航路へ就航！

新造船「ブルーハピネス」横浜寄港記念イベント

船内一般見学会、津軽海峡フェアを 横浜港大さん橋で開催！

津軽海峡フェリー株式会社（本社：北海道函館市・代表取締役社長 石丸 周象^{いしまる しゅうそう}、以下 津軽海峡フェリー）は、2017年3月11日（土）より津軽海峡ロード「青森～函館」航路（※1）に就航する新造船「ブルーハピネス」の船内一般見学会 及び 津軽海峡圏の観光イベント「津軽海峡フェア」を2017年2月28日（火）、3月1日（水）に横浜港大さん橋にて下記の通り開催いたします（船内一般見学会は3月1日（水）のみの開催となります）。

1日（水）は船内一般見学会の前に 関係取引先の皆様方をお招きし、大さん橋内にてセレモニーも執り行います。また、船内一般見学会においては先着3,000名様に数量限定のブルーハピネスオリジナルグッズ（非売品）をプレゼントいたします。

カジュアルクルーズフェリー「ブルーハピネス」が、末永く愛されるよう、横浜近郊の皆様方には是非とも本船をご覧頂きたく、多数のご来場を心よりお待ちしております。

※1：津軽海峡ロード「青森～函館」航路とは、弊社が2014年にネーミングした当航路の愛称です。

記

■新造船「ブルーハピネス」船内一般見学会について

日 時：2017年3月1日（水）12：00～17：00

開催場所：横浜港大さん橋に停泊中の
「ブルーハピネス」船内

そ の 他：先着3,000名様に数量限定のブルーハピネス
オリジナルグッズ（非売品）をプレゼント



■「津軽海峡フェア」について

日 時：2017年2月28日（火）13：00～20：00

2017年3月1日（水） 9：30～17：00

開催場所：横浜市横浜港大さん橋屋内 CIQ スペース

内 容：津軽海峡エリアの観光 PR および物産展

防災用品点検の日（3月1日）にちなんだ防災用品の販売会、港の防災 PR

主 催：津軽海峡フェリー

出 展 者：青森市・函館市・大間町 及び その地域の観光団体、小売業

そ の 他：入場無料

各日、先着 500 名様に数量限定のオリジナルグッズをプレゼント（非売品）

※お一人様、一個限り。プレゼントはグッズが無くなり次第、終了いたします

津軽海峡の特産品や旅行商品券（1 万円分）等、合計 2,000 名に当る抽選会を両日開催！

一般のお客様お問合せ先：津軽海峡フェリー 総務チーム 0138-62-3550

■「セレモニー」について

日 時：2017年3月1日（水）11：00～11：30

開催場所：横浜市 横浜港大さん橋屋内 CIQ スペース

内 容：テープカット、来賓挨拶、津軽三味線（予定）、 など

出 席 者：横浜市 お取引先各位等 ご招待者様を予定

【新造船「ブルーハピネス」について】

（カッコ内は本船と入れ替わりになる「びなす」のスペック）

総トン数：約 8,800 トン（7,198 トン）

全 長：約 144m（136.6m）

定 員：583 名（590 名）

積載台数：トラック 71 台または乗用車 230 台
（トラック 65 台または乗用車 200 台）

速 力：20 ノット（20 ノット）

備 考：災害時に活躍できる船舶として医療対応設備 等、
救助活動に寄与できる設備を搭載しております。

災害時多目的船としての詳細な機能は、別紙御参照のほどお願いいたします。



2016年9月28日進水式（内海造船（株）瀬戸田工場）

以上

■津軽海峡フェリーWEB

PC版 <http://www.tsugarukaikyo.co.jp>

携帯版 <http://www.tsugarukaikyo.co.jp/m>

スマートフォン版はこちらから

<http://www.tsugarukaikyo.co.jp/sp>



災害時多目的船について

【1】概略

災害の際の救援物資の搬入、簡易な医療対応、給電・清水供給などを搭載した船舶を指します。

【2】津軽海峡フェリーの取り組み

当社は3隻(右図)の災害時多目的船を青函航路に導入しており、災害の際に御活用頂けるよう、船舶の設備を整えております。

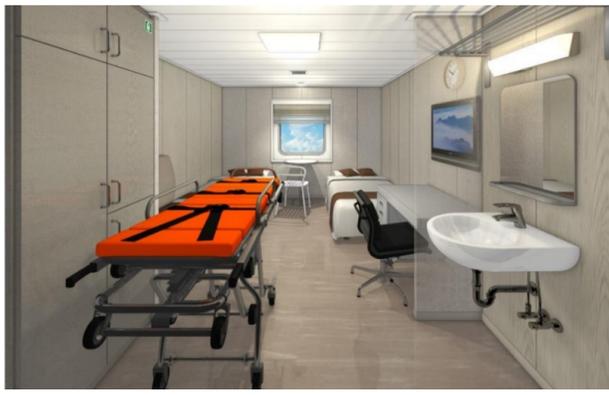
詳細な設備仕様については【3】の通りですが、例えば、通常の航海速度が20ノットであることにに対し、23ノットまで上げることができるエンジンを搭載しております。これは災害の際、救援に向かっても、本州～北海道間の物流量を確保する、通常の運航体制を保持するために設備しているものです。



左から「ブルーハピネス」「ブルーマーメイド」「ブルードルフィン」

【3】災害時対応仕様

設備の詳細について説明いたします。

項目	概要	写真 ※利用想定はイメージです
1. 船首右舷ショアランプドア	■可動橋設備がない一般岸壁に接岸可能	2.エレベーター 
2. エレベーター	■ストレッチャー対応型で、災害時に傷病者を客室甲板に搬送可能 ※ストレッチャー積載時に介護者4名利用可能 ※1900×600型ストレッチャー対応	
3. エスカレーター	■災害時に多人数を車庫甲板から遊歩甲板に搬送可能	
4. ヘリコプターピックアップエリア	■ヘリコプターのホバリングによる羅針儀甲板からの傷病者ピックアップが可能	7.ドクタールーム 
5. 雑用清水供給	■災害時に本船の清水タンクから車庫甲板の給水栓により陸側又はタンクローリに雑用清水を供給可能 ※清水タンク容量:約285㎡	
6. 電力供給	■車両または船橋の各甲板の船内レセプタルでの電力供給可能 ①冷凍コンテナ用(AC440V,3φ,60Hz,30A):2台 ②保冷車用(AC220V,3φ,60Hz,60A):2連式×20台 ③電気自動車用(AC220V,1φ,20A):5台	8.スタンダード客室 
7. ドクタールーム	■災害時に傷病者診察様に利用できるドクタールーム1室を遊歩甲板のエレベーター付近に設置	
8. スタンダード客室	■災害時ストレッチャー搬入できるように各座席入口部にスロープを設置	
9. 衛生設備	■災害時の多人数利用を考慮して、洋式大便器、小便器及び洗面器等を通常仕様より多く設置(大便器で30%増)シャワー室(シャワー数、紳士用×8個所、婦人用×4個所)設置多目的トイレ×1室にオストメイトを設置	
10. バリアフリー通路	■車両甲板(船首ランプ及び船尾ランプから客室までの移動は)バリアフリー対応の通路を設置	